



# ぼんぽん

認定 NPO 法人  
コミュニティセンター・就労継続支援 B 型事業所 ぼんぽん  
まちづくりセンター・フットボールセンター ぼんぽん  
〒731-0102 広島市安佐南区川内 6-28-15  
Phone: 082-831-6888 / Mail: info@hullpong.jp

2023.12

# 194

川口隆司

## 輪の広がりと共に 保護者ボランティア



私たちが NPO として、「こんな活動があるともっといいよね」「地域のひと子どもたちと一緒に楽しめるね」そんな思いから地域食堂をはじめとした色々な行事やイベントを行なってきました。今年度は社会の活動の幅が大きく広がり、ひゅーるぼんでも毎月のようにイベントを企画してきました。そんな私たちの活動にいつも協力して支えてくださるのが保護者ボランティアの皆さんです。

これまでもお祭りや餅つきなどの行事、ぼんぽんの建物の建築や園庭の砂場づくりといった活動拠点の整備など、保護者ボランティアが活動に参加する場面は数多くありました。しかし、ここ数年はコロナによる活動制限で参加する場面がなくなっていました。打って変わって今年度は、地域食堂やぼんぽんの屋根修繕プロジェクトなどで参加を募ると、「やりますよ」と大勢の方が手を挙げてくださいます。ただやるだけではなく、もっとより良く、楽しくしようと一緒に創意工夫を凝らし、盛り上げてくださっています。例えば地域食堂だと、会場設営や調理で何を準備すべきかに参加する皆さんが把握しているため、自然に数人ごとのグループにわかれたり、それぞれの役割を持って動いてくださいます。そのため、回を重ねる

地域食堂、運動会：  
どんな活動でもフットワーク軽く  
そして楽しく参加して下さる皆さんを紹介します。

ごとに準備がスムーズになり、準備時間がどんどん短くなっています。ちなみに会場設営の主な担当となるのは通所児者のお父さんたち、調理や配膳はお母さんたちです。活動が一段落すれば、飲み物を片手ににぎやかなプチ交流会が始まります。そんな光景も日常になつてきており、楽しく会話をしているお父さん、お母さんたちを見て、ぼんぽんの仲間たちやきつずぐみの中高校生男子、学生ボランティアがその中に入っていく、自然な交流の場ともなっています。

集う回数を重ねていく中で、人とつながり交流することの楽しさや NPO 本来の自発性が感じられても心地良い場が生まれています。保護者の皆さんに限らず、通所児者、OB や OG、ボランティア、地域の方など様々な人と共に活動していく中で、このつながりの輪を広げ、さらにこの思いを共有していきたいものです。

また、運動会や秋の夕暮れコンサートでは、保護者競技・合唱という形で出場していただき、活動を盛り上げてくださっています。突然の無茶振りなどにもユーモアを交えて対応してくださる姿には、社会経験を積まれているからこそだなと改めて感じました。



www.hullpong.jp

### Message...



### 人として、今...

ついに悩み続けた問いに対して答えを出すことにしました。その決め手となったのは、「(地球) 温暖化」いや「沸騰化」の影響と言われるこの夏の異常な暑さでした。2006年、のべ600人を超える人たちの汗まみれの作業で完成したぼんぽんとその「芝屋根」は開放感いっぱい、心地よく、これまで多くの人たちの出会いとつながりを生み、紡いできました。それらの活動の積み重ねは「まちづくりデザイン賞」「広島たものがたり」などの受賞にも繋がりました。長年の雨漏りはなんとかスタッフの努力で「風情」や「味」に変えることができたのですが、今年の猛暑は、厚さ約20cmの土の上で生きている芝や草花を蝕み、一気にすべてを枯れ果てさせてしまいました。「沸騰化」を目の当たりにした夏でした。多くの人の思いの詰まった私たちのシンボルとも言える「芝屋根」をなんとかしたい...と、何度も議論を重ねた末「人工芝屋根」として復活させる決断をしました。命の通わない「人工芝」は意味があるのかという問いかけも何度もしながら、しかし、私たちは、人工であってもそこに人の想いと命を吹き込むことができると考え、屋根の改修を決断したのです。「芝屋根」を造った時と同じように、私たちの手で心を込めて新しい芝屋根づくりをすること。トピックスでも紹介があるので詳

細は省きますが、事前準備、専門業者さんの作業をのぞいても、丸4日間汗を流し泥まみれになりながらの作業でした。保護者や理事、普段関わりのあるボランティアさん、作業が可能な通所者、子どもたちも含むのべ100人以上がそれぞれに「できること」で改修作業にかかわりました。2006年の施設建設に携わってくださった大工さんも、角原棟梁をはじめといたさんの方が来てくださいました。屋根で作業するメンバーは時代とともに入れ替わっても、真剣で、とてもにぎやかで、達成感に満たされた4日間。ひよこ組、きつず組、ぼんぽんという所属の枠を超え、あるいは立場を超え、世代を超えて汗を流し、目標に向かって作業する時間はつながりを生み、そのつながりが心地よく心を満たしてくれる...、そんな素敵な時間でした。「つながりは相互性を生むこと」「相互性は喜びと新たな可能性を生むこと」。地域食堂や地域の子どものための交流事業でも感じることで。私は、こうした気持ちに満たされる時間があるひゅーるぼんの仕事がとても好きです。ところで、現在広島市では子ども、障がい、高齢、地域福祉に関する福祉計画の改定作業が行われています。それら計画づくりの基礎資料として実施されたアンケート結果には見逃せないものがあるいくつかあります。

例えば、「広島市は子育てしやすいまちである」と答えた方は、なんと僅か38%。しかも、年々下降傾向にあること。「普段生活をしていく上で困りごとを抱えている」という方は、全体の6割以上。さらに、その相談先は「家族・親族」「知人・友人」など身近な人ばかりで、相談しないという人も26.6%もいらっしゃる。さらにその理由を問うと、「相談しても意味がない」と答えてらっしゃる方が全世代を通して3割もおられ、特に10代に顕著であること。「意味がない」というのが、過去の苦い経験によるものなのか、あるいは、自ら心を閉ざしてしまっていることによるものなのか、あるいはその他の理由によるものなのか推し量る術はありませんが、いずれにせよ、人・社会に対するつながり感、あるいは期待や心地よさ、あるいはそこから生まれる希望は確実に人の心の中から失われてきているように思います。「人」という文字は、人と人が支え合ってきた文字。「人間」というのは「人の間」にあって存在する社会的存在。この「人」「人間」の原点のようなものが今失われつつあると感じるのは私だけでしょうか。世の中は便利に豊かになったのに、人の心はどんどん自分本位だったり、空虚になってはいないか。日常は、一見、豊かで楽しい。映える空間も場面もたくさん。だけど、温暖化がもたらす異常な飢えや貧困、難民と言われる人たち、差別...誰がみても心が痛いことがたくさんあるのに、何もなかったかのように日常は動きつづけ、そこへ身を委ねる日々。「このままじゃいけない」と思っている、何をどう変えていけばいいのかどう行動していけばいいのか...その糸口すらわかりづらく、漠然とした世の中。私事ですが、今年家族の一員だった愛犬が旅立ってしまいました。ゆがむ眼差しの向こうに見えるテレビ画面には、ウクライナで逃げ惑う人と犬の姿がありました。「人

間は一体何をしてるんだ。人間がしっかりしなきゃ！」という言葉が思わず口をついて出そうになりました。しかしその「人間」とは、とりもなおさず自分自身。大人であるにもかかわらず、ただただ無力しか感じれない自分自身を情けなく、腹立たしく思いました。しかし、そうであっても、わかりづらく漠然とした社会の中にあっても、今、こうして私たちは確かに存在しています。存在は、不安も生みますが希望も生みます。傲慢も生めば優しさも生みます。破壊も生めば創造も生むのです。私たちは愚かであってはならないと感じます。今、大切なことは、まずは私たち自身から心ある行動をし、繋がりを紡いでいくことだと強く思います。そこから、信頼が生まれ、夢が生まれ、それはいずれ確かな希望へとつながっていくはず。スマホを置き、部屋を出て、隣人に挨拶をすること、声をかけること、会話をすること、潤いをもらす花を植えること、横断歩道で停車をすること、バスや電車で席を譲ること、譲ってもらった喜びを感じることを、笑顔でいること...、さらに自分の得意なことを外に向かって発揮すればもっと楽しいことだって起こるかもしれません。そして、きちんと意思表示をしていくこと。今、大切なことは、自分自身人間としての眼差しと尊敬を持って行動していくことだとあらためて感じます。「芝屋根の土」をまいた園庭には四季折々の花を植え、通所者、子どもたちとともにつながりと笑顔を紡いでいきます。さらに、新しい「芝屋根」がある空間では、その日常に人が集まる仕掛けを作っていくと思います。いつも言うことですが、社会が変わる一歩はまずは民から。歴史もそれを物語っています。今だからこそ、私から、あなたから優しさにつながりとして希望を。ともに、いい年を創っていきましょう。



放課後の過ごし方から見えてくること

副島 沙奈
うるとらのほし編集部



前号のトピックスで紹介した「わくわくきつず」の交流をとおして、今の子どもたちはどのような場面でどんなことを放課後遊んでいるのか、また自分たちの時代の放課後について話題にあがるのが多くなりまし

そこでアンケートをとってそこから見える放課後の過ごし方を考えてみたいと思います。

「最近では遊ぶのに「予約」がある」という話もよく聞きますが、放課後の選択肢の広がりも増えていることなどが読み取れました。

現実があることへの危機感そのものだと思います。

アンケートはひゅーるぼんを利用する保護者とスタッフを中心に、おむね50代以上をA世代、45歳前後をB世代、35歳前後をC世代、25歳前後をD世代にわけてそれぞれの変化をみていくことにし90人の方から回答をいただきました。

また「スマホ・タブレット・ゲーム」がD世代からはじめて3位にのぼり、A世代ではゲーム遊びは1%足らずであったのが、D世代では11%と増加していました。

「最近では遊ぶのに「予約」がある」という話もよく聞きますが、放課後の選択肢の広がりも増えていることなどが読み取れました。

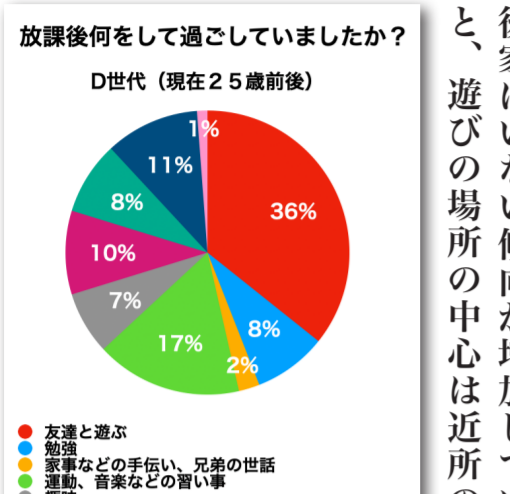
「最近では遊ぶのに「予約」がある」という話もよく聞きますが、放課後の選択肢の広がりも増えていることなどが読み取れました。

アンケートはひゅーるぼんを利用する保護者とスタッフを中心に、おむね50代以上をA世代、45歳前後をB世代、35歳前後をC世代、25歳前後をD世代にわけてそれぞれの変化をみていくことにし90人の方から回答をいただきました。

また「スマホ・タブレット・ゲーム」がD世代からはじめて3位にのぼり、A世代ではゲーム遊びは1%足らずであったのが、D世代では11%と増加していました。

「最近では遊ぶのに「予約」がある」という話もよく聞きますが、放課後の選択肢の広がりも増えていることなどが読み取れました。

「最近では遊ぶのに「予約」がある」という話もよく聞きますが、放課後の選択肢の広がりも増えていることなどが読み取れました。



以上の結果からは、保護者が放課後に遊びの場所の中心は近所の公園だと思えます。

「今日は何にする？」からはじまる「時間」と、友だちと感情を揺らしながら過ごす「空間」をこれからの「きつずぐみ」や「わくわくきつず」の実践をとおして悩み、考え続けていきたいと思えます。



●シアターサマンサさん ~子育てサロン~

7月11日の子育てサロンに安佐南区で活動されているシアターサマンサさんをお呼びしました。人形劇や歌、エプロンシアターなど盛りだくさんのプログラムをママと一緒に楽しみました。



●11月18日 焼き芋会 & 地域食堂「みんなおいでや」

毎年お世話になっている佐東公民館の「おやじの料理教室」の方に来ていただき、特製のやきいも機で50kgのおいもを焼いてもらいました。



●11月17日 秋の夕暮れコンサート



ご報告
広島県よりご推薦を頂戴し、本法人は12月12日付けで、以下の表彰を拝受いたしました。



6~11月

正会員・賛助会員
JIN ZHENYU、園山司、岡本哲司、下垣内治登、橋本太、橋本裕人、金子涼一、胡明憲二、佐野和輝、齋藤元浩、山口道子、山田剛志、志茂洋二、秋田訓宏、松田智仁、松葉口澄江、上村一相、谷川尚子、竹内章子、中本隆秀、猪飼亮、長尾哲也、飯塚真美、福田悦子、本村宏二、門田修、六岡幸一、今田庸子、山本博之、新三子代、渡部久仁子、藤井恭子、NPO法人かぞくの家さくら、NPO法人工房尾道帆布、匿名49名、スタッフ21名

ご寄付
みずえ緑地株式会社、ムハンマド ヤッセル、

広島インターナショナルスクール PTA 一同、株式会社竹野工業、魚長、株式会社 NTT ドコモ中国支社、株式会社 BOAZ、特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima、総合エナジー株式会社、株式会社広島銀行、広島信用金庫、司法書士法人高尾事務所、積水ハウス株式会社広島シャーマン支店、ハウコクホールディングス株式会社、株式会社インシストコーポレーション、NPO 法人 葉、株式会社アイランドオート、JIN ZHENYU、下垣内治登、吉田恭子、金子涼一、佐野和輝、山田剛志、志茂洋二、松田健、竹林地毅、門田修、森山学、今田庸子、藤井恭子 その他匿名 36 名

物品のご寄付
地域食堂「みんなおいでや」の食材や絵本・箱ティッシュ、お花などたくさんのご寄付をいただきました。

今回の特集「放課後」編集では、さまざまな年代のスタッフが集まり小学生の頃の放課後の思い出で盛り上がりました。

この子らと世に光を
発行日：2023/12/20 (年2回発行)
ひゅーるぼん会報「うるとらのほし」

賛助会員
Hull Fan 年間4,000円
お申し込みは www.hullpong.jp からクレジットカード等もご利用いただけます